

テモテへの手紙第二 第4章 2節

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」

厳寒の季節から穏やかな風が吹き始める季節へと移行しつつある。新芽のやわらかな色が木立にいぶきを与える。花をつける木立は順番に咲き始める。もう少しで春爛漫のときを迎える。

ところが、東ヨーロッパでは、この暖かい季節を迎える直前に戦火が拡大している。これから見えたであろう新芽の木立。これから大地に咲き誇ろうとする花々。これから実りの兆しを見せようとしている麦畑。これから命を受け母胎から飛び出そうとする子等。これから勢いよく成長しようとする幼子たち。これから祖国をより健やかに建て上げようとする若者たち。これまで踏みにじられた歴史に終止符を打ち、かけがえの無い祖国を慈しむ者たち。それらすべての思い、いのちさえを踏みにじるように国境を越える狂気の塊が拡大する。だれがこの破廉恥な行動の償いをすることができるだろうか。だれが狂った暴拳を止めることができるだろうか。だれが滅びの門に覚醒するのか。

街々、村々、に嘆き叫びが満ちる。声も涙も枯れ果て隠れ潜む民がいる。シェルターには灯り無く、水無く、食べ物も無い。救いはどこに。

2022年3月16日